

第1章 演技の採点

第1条 原則

1 次に示すもの以外は(公財)日本体操協会制定2025年版体操競技男子採点規則を適用する。

第2条 決定点

1 決定点の構成

(1) 決定点は、次の配点により構成される。

演技構成 (Dスコア: 5技+終末技+技のグループ)

+実施 (Eスコア: 10.00-減点)

-N D (ニュートラルディダクション: ライン減点、タイム減点、技数不足等)

決 定 点

2 演技構成、および技のグループと特別要求(種目特有の要求)

(1) ゆか、鉄棒の演技は次の技数を要求する。

a Dスコア 6技(5技+終末技)

I 技は難度により、次の得点(難度点)が与えられる。

A: 0.1 B: 0.2 (a: 0.1) C 難度以上は禁止とする。

(2) 技のグループ、および特別要求(種目特有の要求)

a ゆか、鉄棒において次のグループを要求する。

I 終末技を除き3つの技のグループの内、2つを要求する。

(1グループ=0.5×1=0.5。2グループ=0.5×2=1.0。3グループ=0.5×2=1.0。)

II 終末技のグループ(A難度・B難度とも0.5)

※終末技において、不認定となった場合でも一つの技数としてカウントする。ただしグループ点は与えられない

b 技のグループは次の通りとする。

ゆか)

i 跳躍技以外の技

ii 前方系の跳躍技

iii 後方系の跳躍技

iv 終末技

鉄棒)

i 懸垂振動技

ii 手放し技

iii バーに近い技

iv 終末技

c 特別要求(種目特有の要求)

ゆかにおいて次の技を特別要求(種目特有の要求)として演技構成に入れること。

要求を満たさない場合、それぞれの項目ごとに0.3のNDとする。なお、Dスコアとしてカウントされる6技に入れる必要はない。

○ゆか ・倒立静止または倒立経過の技 ・前後または左右開脚座 ・片足バランス技

(3) 難度認定の特例

a α 難度 (スモールエー)

I 体操競技の健全な発展と評価、そして普及の観点から5条-2で示す技をα 難度とし、0.1の難度点を与える。ただし、技のグループは満たせない。

b 難度表に掲載されていない次の技を特例としてA 難度と認定する。

(技のグループと技数を満たす)

鉄棒	グループ iii	け上がり支持
	グループ iv	後方足裏支持回転振り出し下り
		後方かかえ込み宙返り下り

(4) 跳馬の価値点 (D スコア)

a 跳馬の価値点 (D スコア) は、原則として下記に定める価値点とする。

○開脚とび (1.0)

○閉脚とび (1.0)

○台上前転 (2.0)

○前方倒立回転とび (4.0)

b 上記に示されていない技を実施した場合は、難度点 (D スコア) は0点とする。

第3条 実施

1 実施

(1) 実施は10.00から実施減点を差し引いた得点をE スコアとする。

2 実施減点

(1) 正しい演技からの逸脱は、すべて実施欠点があり、審判員によって相応の減点がなされる。

小・中・大欠点の大きさは、正しい実施からの逸脱の程度により判定される。

小・中・大欠点等の減点はFIG ルールの減点に準ずる。ただし、落下のみ0.5減点とする。

3 減点に関する特例

(1) 鉄棒において、正しい実施のもとに意図して実施された振れ戻りは減点の対象としない。

例) 後ろ振り上がり 逆手から順手への両手持ち替え

第4条 ND

1 ニュートラルディダクション

(1) ゆかにおいて、2回宙返りを実施しなくてもNDの対象とならない。

(2) ゆかにおいて、対角線2ラインでの実施が認められれば、NDの対象とならない。

(3) 短い演技に対するNDは、次の通りとする。

5 技	1.00
4 技	3.00
3 技	4.00
2 技	5.00
1 技	6.00

第5条 その他

- 1 事故防止と選手の精神的援助のため、鉄棒において2名までの補助者が立つことが許される。
- 2 主なα難度技を以下に示す。示された技以外は競技会の主旨、レベル等を考慮して審判員各自で判断する。

- ゆか
- ・前転技群（前転・開脚前転・伸膝前転・倒立前転）1技まで
 - ・後転技群（後転・開脚後転・伸膝後転・後転倒立）1技まで
 - ・側方倒立回転
 - ・ロングアート
 - ・2回目の前方宙返り
 - ・2回目の後方宙返り など

- 鉄棒
- ・懸垂前振りひねり
 - ・懸垂前振り逆上がり
 - ・後ろ振り上がり支持
 - ・両手を同時に持ちかえる技
 - ・前方支持回転
 - ・後方支持回転
 - ・2回目の前方車輪
 - ・2回目の後方車輪

◎2022年版全国ブロック選抜U-12適用規則との主な変更箇所

- 1 採点規則を2025年版に変更する。
- 2 中体連二部設定の趣旨は、中学校から体操競技に親しみ始めた生徒が活躍できる競技会の場を設けることである。しかし、現状、小学生段階から体操競技を始め、高難度の技を組み込んだ演技を実施する選手も複数名見受けられる。本来の趣旨に鑑み、本規則ではB難度までを要求し、その中で技を競う規則とする。
- 3 ゆかの特別要求として、倒立静止または倒立経過の技でも要求を満たせることができるよう追加。
- 4 加点については、項目を削除。
- 5 α難度技の追加。